

平成27年度 東村山市立東萩山小学校 第2回学校関係者評価報告書

○思いやりのある子 ◎考えて行動する子 ◎自ら学ぶ子

【目指す学校像】 ○子供にとって「温かい学校」「安心・安全な学校」「楽しい学校」を創造する。

【目指す児童・生徒像】 ○相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動する子 ◎自分で考えて行動し、進んで学ぶことができる子 ◎進んで健康づくりに取り組む子 ○進んであいさつができる子

【目指す教師像】 ○子供に愛情を注ぐ教師 ○わかりやすい授業をめざす教師 ○学び続ける意欲とプロとしての自覚をもつ教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

《成果》 ・特別支援学級設置校としての交流・高まった人権意識 ・ユニバーサルデザインを意識した授業展開 ・学習規律や学習環境の整備

《課題》 ・特別支援教育を中心とした人権意識向上の交流の深化 ・学力定着への工夫と保護者、他機関との連携 ・学習規律・学習環境のさらなる整備

	具体的方策	第2回評価		課題と次年度以降の対策	第2回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
学力向上	視覚、聴覚の双方に訴えかける発問や授業展開の工夫をする。	4	4	視覚・聴覚の双方に訴えかける発問や授業展開の工夫を全教員が意識して行い、保護者アンケートからも「学習内容を理解しているか」という設問に対して94%の肯定的回答を得ることができた。楽しく学習できたという児童の満足度も92%という高い結果である。さらに学力向上のために、日々の教材研究や授業準備に力を尽くしてきた各担任が授業で「どんな力を身につけさせるのか」を具体的に考え、ねらいを定めて授業に臨むことができた。88%の児童が「めあてをもって取り組めた」と回答している。特に算数においては、目標やねらいを青線で囲むなどの具体的ルールを揃え、目標の明確化を図っている。学年間で指導のねらいを十分共有し、より明確に目標の気持ちのよい言葉遣いができているという児童の自己評価が前期63%に比べて69%に微増している。一方、保護者のアンケートからは90%の肯定的回答を得ている。校内においても場に応じた言葉づかいを継続して指導するとともに、児童同士の温かい人間関係づくりにも力を尽くしていきたい。	・子供の関心と意欲を引き出す設定・展開・工夫を評価している。基本的な学習を継続的に取り組んでいるように思う。応用を克服する指導にも更に力を入れてほしい。また、算数を中心に自分の考えをはっきり伝えられる子供を育ててほしい。
	授業のねらいを明確にして授業を行い、適切に評価し、授業改善に役立てる。	4	3	あいさつが校内の先生や友達に元気よくできるよう、各学級での指導をはじめ、代表委員会のあいさつ運動やあいさつの木など具体的な取り組みが行われた。だれにでも元気よく児童自身からすすんであいさつできるように今後も指導を続けていく。	・毎時間、どの教科においても本時の目当てが板書され、ねらいが明確になることは、子供たちも見通しをもって学習が進められてよい。指導者側も児童側も学習のねらいから外れることがないと思われる。
健全育成	場に応じた言葉遣いを心がけ、相手に気持ちの良い接し方を指導する。	4	2	教師側の評価は高い結果であったが、児童の達成率は、64%であり、前期68%に比べて若干減っている。走っていたり左側を歩いていたりした児童には、繰り返し全教員が同じスタンスで指導する。子供たち同士でも声をかけ、やり直しをさせる習慣を確実に身に付けさせていく必要がある。	・大人の注意になんでも「うざい」というような一言を使うということを聞く。あいさつも、言葉づかいも家庭教育の影響は大である。放課後や休日に子供同士の遊びが少ないことは、子供同士でのコミュニケーション力が不足にもなってはいないか。
	教師自ら範を示し、あいさつを励行する。	4	3	児童の肯定的回答は93%であり、進んで運動する児童が多く見られた。冬季体力づくりでは、なわとびやマラソンの取り組みも活用していき、これからも指導の工夫や研修を進めて、どの子も満足のできる運動量の確保ができる体育の時間を目指していきたい。	・先生方ばかりでなく、まずは親が、そして地域も範を示し、あいさつの輪が広がるようにしていきたい。学校来たときは、よくあいさつができていますと感心している。
健康・体力づくり	廊下や階段の歩き方を指導できたか。	4	2	今年度も児童に地域の行事に1回は参加するように働きかけを行った。地域の行事があるたびに児童に紹介し、参加を促した。年間を通して68%の児童が1回は参加できたということは、ある程度評価できるものと考え。来年度も地域行事への参加意識が高められるように周知の工夫をしていきたい。	・誰もが決まりは分かっているものの、つい急いでしまうという状況もあろう。集団で安全に生活するための方策なので、いつでも落ち着いて行動ができるよう、声掛けや安全について理解させることが大切である。
	授業時の子供たちの直接の運動時間を十分確保できるような指導の工夫をする。	4	4	保護者会では全クラスが手引き書を活用し、学校で指導していることを家庭と共有したり、家庭での声かけを呼びかけたりすることができた。来年度も手引き書の内容を保護者会や個人面談などの機会をとりながら活用し、学校と家庭とが一体となって、健全な児童の育成を図りたい。	・いろいろな工夫された運動が体育の時間に取り入れられている。子供たちの人気No1が体育である気持ちが分かる。定期的になわとび週間やマラソン週間が設定されていてとても良い。カードの活用は、子供たちの意欲を高めていることと思う。週間以外でも継続してできる子が増えるとよい。
保護者・地域との連携	地域の行事を児童に紹介し、すべての児童が1回は地域行事に参加するように働きかける。	4	2	保護者会では全クラスが手引き書を活用し、学校で指導していることを家庭と共有したり、家庭での声かけを呼びかけたりすることができた。来年度も手引き書の内容を保護者会や個人面談などの機会をとりながら活用し、学校と家庭とが一体となって、健全な児童の育成を図りたい。	・地域運動会には、たくさんの子供たちが参加してくれた。地域の方との触れ合いの場があるので、兄弟、親子で一緒に参加し、地域を盛り上げてほしい。先生方にもたくさんの方の行事に参加していただき感謝している。
	家庭教育の手引き書を保護者会などで活用し、保護者への啓発を行う。	4		青葉学級との共同学習や縦割り班活動など、様々な場面で交流を図り、関係づくりを目指すことができた。後期のたてわり読み聞かせでは3、4年生は初めて取り組んでおり、来年度からリーダーシップをとる意識付けとして位置づけることができた。来年度も「東萩フェスタ」や各学年の青葉学級との共同学習での関わりを大切に、お互いに認め合い、励まし合い、高めあう力を育てていきたい。	・家庭に配布しても読まない方もいるだろうから、保護者会の度に学校から提供して、保護者の意識を高めてほしい。学校と家庭の一体が、健全な子供の育成になる。
特色ある学校づくり	授業・行事・給食・休み時間など様々な場面で交流を図り、協同しあえる関係作りを構築する。	4	3		・その時限りの交流に留まらず、継続して交流できる取組があるとよい。また、左記に限らず普段から自然な関わりができるとよい。バリアフリーの考え方を共有していきたい。